

お彼岸

平成31年3月第3週放送

三月半ばを迎え、年に二回のお彼岸ひがんの季節がやってきました。暦こよみでは今年三月二十一日が春分の日で、お彼岸の中日となり、その前後三日が春彼岸です。

今年も、春分の日を境に、昼が次第に長くなっていくのが実感できることでしょう。

私たちは、毎日、東から登り、西に沈む太陽を見えています。自分を中心に据えれば、動くものは周りのものとなります。自分がいる地球を中心として考えると、太陽も、星も、それぞれ地球の上を登り、周囲を動くものとなります。

しかしながら、事実としては、皆様ご存知の通り、太陽が地球を中心に動いているわけではありません。実際には、動いているのは地球の方で、一年をかけて地球が太陽の周りを回り、一日をかけて地球が一回転していることで昼と夜とが訪れます。

このように、私たちの眼から見える世界の在り方と、実際の世界の在り方が、まるで違うものになることがあります。私たちが、自分を中心に考え、自分の見える世界を真実だとする見方に囚われてしまうことで、世界のありのままの姿から遠ざかってしまうというのは、珍しいことではありません。

自分を中心にする世界と、実際の世界の在りようは、春分の日に一度交差します。春分の日は、国立天文台が定める春分日（しゅんぶんび）を基準とし、制定されています。地球の運行状況を踏まえた今の地球の姿から導き出された日を春分の日と定めることで、私たちが、昼と夜の長さが同じであることを実感できる日となります。

そしてこの日のことをお彼岸の中日と呼びます。毎年訪れるお彼岸は、お墓参りや供養を行い、ご先祖様を仏様として想い、遺された教えを改めて振り返る機会です。

『 禅のこころ -曹洞宗- 』

普段自分の身の回りのことについつい気を取られて、時に自分を中心とする私たちのあり方に軌道の修正が必要になることは、春分の日のある方と、何となく似通ったところがありませんか？

— 終 —